



「ボランチわ」は日産スタジアムボランティア情報誌です

2025シーズン 横浜F・マリノス戦のホーム最終戦開催！

～今シーズンの最多観客数を記録しました～



ほぼ満席になった横浜F・マリノスのサポーターシートは大いに盛り上がりました

2025年11月30日(日)、横浜F・マリノス vs セレッソ大阪の対戦が行われました。この試合がホーム最終戦となり、多くの観客が集まりました(観客数 42,665人)。今シーズンの横浜F・マリノスは攻守の両輪がなかなかみ合わず、勝点を伸ばすことができず成績が振るいませんでした。J1残留が決定して多くの横浜F・サポーターが胸をなで下ろしたことでしょう。この日も大勢の横浜F・マリノスサポーターが応援に駆け付けました。試合は横浜F・マリノス 3-1 セレッソ大阪で勝利して、横浜F・マリノスサポーターは大いに盛り上がりました。

ボランティア活動前の全体ミーティングではホーム最終戦に合わせて横浜マリノス代表取締役社長中山昭宏様、及び横浜市スポーツ協会公園管理局長松寄尚紀様からご挨拶がありました。

今年を振り返ると夏のボランティア活動では、皆様が体調管理を入念に行って熱中症の体調不良になることなく、今シーズンの活動を終えることができました。ご協力ありがとうございました。(久保勝美)

横浜マリノス代表取締役社長 中山昭宏様のご挨拶

早いもので今日がホームゲーム最終戦になります。今年も1年間、ありがとうございました。ボランティアの皆様一人ひとりが日産スタジアムのホームゲームを作ってきたことに、本当に感謝しております。残り2試合となって今日がホームゲーム最終戦となります。セレッソ大阪戦で観客数が4万人を超え、今シーズン最大の観客数となります。ボランティアの皆様のお力を借りながら、横浜F・マリノスらしいホームゲームを作り、勝って締めくくりたいと思います。今日も宜しくお願い致します。本当に今年1年間ありがとうございました。



中山昭宏様

ボランティアの笑顔で、スマイルスタジアム

横浜市スポーツ協会公園管理局長 松寄尚紀様のご挨拶

1年間のボランティア活動お疲れ様でした。心より感謝を申し上げます。今、横浜マリノスの中山社長からありました様に、横浜F・マリノスに関してときどきさせられ、日産スタジアムのネーミングライツでハラハラさせられました。時間が経過する中、社会情勢が変化していくので現状を維持することがとても大変なことだと痛感させられました。皆さんのボランティア活動も1999年から26年継続され、四半世紀を超えようとしています。この間、継続していくことは大変な努力があったと考え、敬意を表したいと思います。ぜひ来年も引き続きボランティア活動をお願いしたいと思い、私の挨拶と替えさせていただきます。本日のボランティア活動を宜しくお願い致します。



松寄尚紀様

横浜F・マリノスとリヴァプールFCが日産スタジアムで激戦！

～明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 presented by 日本財団～



リヴァプールFCのユニフォームを着た多くの観客が来場して大部分のスタンドを赤く染めました

リヴァプールFCは1892年に創設されたイングランド・プレミアリーグの名門です。今回、20年振りの来日で、2025年7月30日(水)、「明治安田Jリーグワールドチャレンジ2025 presented by 日本財団」による横浜F・マリノス vs リヴァプールFCの対戦が行われて、多くの観客が集まりました(観客数 67,032人)。北エリアのホーム側の1階は、横浜F・マリノスの青いユニフォーム着用のサポーターが集まりましたので、ホーム側は青く染まりました。南エリアのアウェイ側の1階は、リヴァプールFCの赤いユニフォーム着用が決められていました。そして東西のスタンドにもリヴァプールFCの赤いユニフォームを着た多くのサポーターが座って目立っていました。試合は横浜F・マリノスが後半10分に1点先制しました。その後、リヴァプールFCに所属する遠藤航選手が後半15分から出場してスタジアム全体が盛り上がりました。地力に勝るイングランド・プレミアリーグ王者のリヴァプールFCは着実に得点を重ね、横浜F・マリノス 1-3 リヴァプールFCで盛り上がった試合は終了しました。(次頁へ続く)

日産スタジアムボランティアはビニール袋に入った配布物を東西ゲートで配りました。入場ゲートではリヴァプールFCのユニフォームを着た観客が目立ちました。キックオフの19:30の直前には予定された配布物が全て無くなりました。真夏の活動で気温は約32度で定期的に休憩を取って、水分を補給して熱中症対策に気を付けました。参加された日産スタジアムボランティアの皆さま、スタジアム職員の方々、お疲れ様でした。(久保勝美)



来場者向けの配布物を渡しました



多くの来場者に配布物をお渡ししました

2026年度 日産スタジアムボランティア交流会

～芝生体験 & 日産スタジアムツアー（スペシャル・バージョン）～

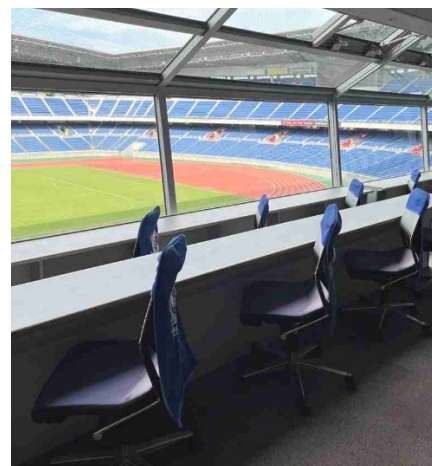


ボランティア交流会に参加された皆様（芝生体験を満喫しました）

2026年5月30日(日)、日産スタジアムボランティア交流会を行い、43名のボランティアが参加しました。

2月のリーダー部会で「魅力のあるボランティアを目指すアクションプラン」を話し合いました。いくつかの案がありましたが、2026年度には芝生体験&日産スタジアムツアーを実施する方向で検討を進めました。

通常、ボランティア活動では立ち入ることができない日産スタジアムの特別なエリアを選んでスタジアムツアー(スペシャル・バージョン)をプランしました。西スタンド側の6Fの全面ガラス張りの特別観覧室、放送ブース、5F貴賓室を見学してから、西スタンドの貴賓席とVIP席を通過して、パーティー会場などで使用する401号室、3F記者会見室、2F展示ブース、2F横浜F・マリノスが使用するホーム側ウォーミングアップルーム、ホーム側更衣室を見学しました。横浜F・マリノス更衣室は今までほとんど入室が許されていないので、貴重な体験でした。その後には芝生体験を行い、参加者がサッカーボールをけったり、10名くらいのボランティアが輪になってラグビーボールをパスし合ったりして楽しみました。最後に参加者全員で写真撮影をして交流会が終わりました。今回のボランティア交流会の開催に際し、日産スタジアムのご配慮をととても感じて、参加したボランティアは今回のイベントをととても楽しめました。日産スタジアムスタッフの皆様、ご協力ありがとうございました。(久保勝美)



6F特別観覧室を見学

横浜 F・マリノス戦のフィロソフィーで大家啓伸さんがメッセンジャーになりました！

2025年5月25日(日)、横浜F・マリノス vs 鹿島アントラーズの試合前にフィロソフィーが行われ、大家啓伸さんが日産スタジアムボランティアとしてメッセンジャーを担当しました。

＜大家さんが述べたメッセージ内容＞

日産スタジアム運営ボランティア26年の歩みと「人とのつながり」の大切さ

皆さん、おはようございます！

日産スタジアム運営ボランティアの大家です。本日は「フィロソフィー」という大役を仰せつかり、大変緊張しておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

私がここ日産スタジアムでボランティアを始めたのは、スタジアムが完成した1998年のことでした。翌年にはボランティア組織が発足し、今年で26年目を迎えます。ボランティアを始めたきっかけは、当時、会社員として働いていた中で、2002年の FIFA ワールドカップサッカー日韓大会がここ日産スタジアムで開催されることを知ったことでした。世界大会がこの場所で行われることに魅力を感じ、「何か関わりを持てないだろうか」と思ったのが始まりです。この26年間、Jリーグの横浜F・マリノスのサッカーはもちろんのこと、スタジアムで開催される様々なイベント、そして2019年のラグビーワールドカップにも携わることができました。日産スタジアムと共に、横浜F・マリノスの成長も見届けてきたことは、私にとって大きな喜びです。

「無形の創造」と「共創」

このような経験を通して、私が何よりも大切にしてきたことがあります。それは、人とのつながりです。

スタジアムに来場される方々は、何かしらの目的を持って来られます。その方々とのつながりを持ち、イベントを無事に完遂させること。そして、一緒に楽しむことで、その時間を共感することに価値があると考えています。

ボランティア活動を通して得られた具体的な喜びや達成感は、まさにこの「一つのイベントをやり遂げた」という感覚にあります。大きなイベントが終わった後、皆で「やりきった！」と分かち合う達成感は、何物にも代えがたいものです。これも、ボランティア仲間とチームワークや支え合いながら協働できたからこそ感じられるものです。

それは、無形の創造を通して共創を共にすることに他なりません。喜び、悲しみ、悔しさといった苦楽を共に分かち合いましょう。(次頁に続く)



大家啓伸さん

今後のボランティア活動においても、世代の枠を超えて皆さんと共に共創し、引き続き頑張っていきたいと考えています。そして、本日の試合を皆で最高の形で成し遂げましょう！ありがとうございました。

(写真提供 久保 勝美)

Japanカップ：横浜レースノルディックウォーキング2025

2025年11月16日(日)、中央広場をスタートとフィニッシュ地点として日産フィールド小機の外周と北ゲートまでのスロープを使った「Japanカップ：横浜レースノルディックウォーキング2025」が行われました。フィンランド生まれのノルディックウォーキングは老若男女を問わず、手軽に健康増進を図ることができるので、多くの人が参加できるスポーツです。さらにタイム計測により競技形式のスポーツ大会としてレースノルディックウォーキングが行われています。日産スタジアムでは初めてのレースノルディックウォーキングが開催されました。ボランティアはコースの横断路での歩行者誘導を行いました。レースノルディックウォーキングの参加者はストックを使ってリズムカルにコースを歩いていた。本格的に競技を行っている選手は日頃の練習の成果を発揮してスピードに乗ったウォーキングを披露していました。(久保勝美)



活動に参加したボランティアの皆さん



スタートする競技者

2025インラインチャレンジin横浜

2025年11月23日(日)、24日(月・祝日)に日産フィールド小機外周コースを使った「2025インラインチャレンジin横浜」が開催されました。ボランティアはコースを横断する歩行者を誘導する役割を担いました。インラインスケートをはいた大人から子どもまで多くの参加者が、カー杯実力を出して楽しそうにフィニッシュしていました。(久保勝美)



大会に協力したボランティアの皆さん



インラインチャレンジ競技者の皆さん

第11回日産スタジアム 5時間耐久リレーマラソン



親子マラソンで勢いよくスタートしました

2025年12月6日(土)、恒例の5時間耐久リレーマラソンが開催されました。競技は5時間リレーの部、5時間リレー当日チーム結成の部(一人で申し込み当日抽選等でチームを決定)、42.195kmの部、親子マラソンに分かれています。当日は天候にも恵まれて、参加者は気持ちよく汗を流しながら、走っていました。親子マラソンでは小学生以下のお子さんと保護者が精一杯コースを走りきり、最後は親子で手をつないでゴールする姿がほほえましく感じました。ボランティアは給水、リレーゾーン管理、スタンドからフィールドにつながる出入口誘導を担当しました。(久保勝美)

ボランティア懇談会と親睦会を開催

2025年8月9日(土)、日産スタジアムビアガーデン2025が開催され、それに合わせてボランティア懇談会が行われました。ボランティアの有志はこの機会に日産スタジアム場内売店の人気メニューやビールなどのアルコール飲料を堪能しました。日頃、活動中にはお話しする機会がなかった方々とも楽しいお話をしました。

その後、ボランティアルームに移動して、親睦会を行いました。食べ物や飲み物が用意されており、抽選会の賞品もあって和気あいあいとした雰囲気の中でボランティア仲間の交流が図られました。(久保勝美)



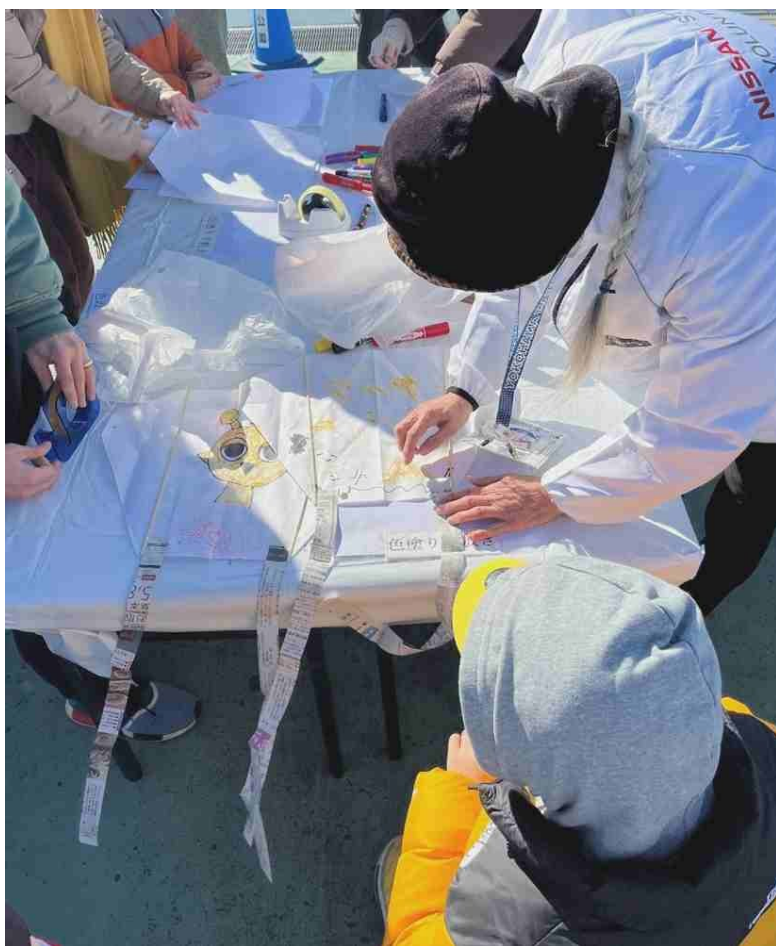
日産スタジアムビアガーデン2025に参加しました



ボランティアルームにて親睦会を開催

2026年 歳時記イベント「新横浜公園 凧揚げの日」

1月12日(月・祝日)、恒例の歳時記イベント「新横浜公園 凧揚げの日」が行われました。イベント開始時間の10時前には多くの親子が会場近くに長い列を作りましたので、早めに開場しました。27人のボランティアが活動に参加して、受付、凧作りの指導、凧揚げの指導、昔遊び指導を担当しました。昨年の凧揚げの日には、予想以上に多くの親子が来場して午前中には凧作りセットが完売してしまったので、今年のイベントでは凧作りセットを増やして370セット用意しました。親子が協力して凧作りに挑戦しました。最初に凧本体の和紙に絵を描いて、凧を組み立てました。ボランティアが作り方を説明して、次々と凧が仕上がりました。出来上がった凧を手にして芝生で楽しそうに凧を揚げていました。昔遊びでは、普段見たことのないコマ・羽根つき・竹とんぼ・竹ぼっくりをボランティアに教えてもらいながら、上手に遊んでいました。正月の歳時記イベントを親子で楽しんでいる姿を見て、ボランティアも笑みがこぼれました。スタジアムスタッフの方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。(久保勝美)



ボランティアから凧の作り方を聞きます



思い思いに芝生で凧を揚げています

一般公募で多くの家族が『田植え体験』に参加！

～グリーン＆クリーン部会が恒例の行事を行いました～



参加されたご家族とボランティアによる集合写真、はいポーズ！

2025年5月24日(土)、曇り空の下で今年も「親子で楽しく米作り、植えて覚えよう花の名前」が行われました。新横浜公園にある田んぼには一般公募で申し込みをした13家族(大人20人、子供15人、合計35人)が集まりました。これは運営ボランティアのグリーン＆クリーン部会が主催しているもので、ボランティアはこの日のために田おこし、代掻き作業などを行ってきました。初めにボランティアが写真を使いながら苗の植え方を丁寧に説明しました。その後、いよいよ田植えに挑戦しました。初めは恐る恐る田んぼに入った子供たちでしたが、少しすると泥の感触にも慣れ、ボランティアから「ずいぶん上手になったね」と声をかけられていました。そのうちはしゃぎ始めて、中にはお父さんの長靴の中に泥を入れたり、田んぼの泥を使って泥団子づくりを始める子供もいました。笑い声が田んぼのあちこちで上がるようになりました。途中、自分だけ早く田植えを進めようとするお子さんにお父さんが「チームワークが大切なんだよ」と諭す場面も見られました。ボランティアは子供たちの後ろにいて苗を渡したり、田んぼに上手に苗が植えられるように田んぼの泥を均したりと田植えのサポートをしました。田植えの後、ご両親に話を聞くと「最近の子供たちはこういう土に触る機会が少ないので、今日は来てよかったです」と話していました。その後、田んぼの近くの花壇に花植えをしました。子供達は花の根がしっかりしていることに驚いていました。最後に全員で集合写真を撮って解散になりました。参加した家族には帰りにもち米、花の種、ファイルなどのお土産が手渡されました。「おいしいお赤飯を作ります」と笑顔でお母さんが話されていました。このイベントのためにずっと以前から田んぼの状態を整えて準備を続けてきたグリーン＆クリーン部会の皆様、お疲れ様でした。(坂田圭美)



いよいよ田植えを始めます



泥だらけ、でも楽しい！



親子で仲良く花植えしています

2025年度「案山子づくり体験」に2組の親子が参加しました ～田んぼの近くに並べる案山子を今年もつくりました～



完成した案山子を持って日産スタジアムの中で記念撮影しました

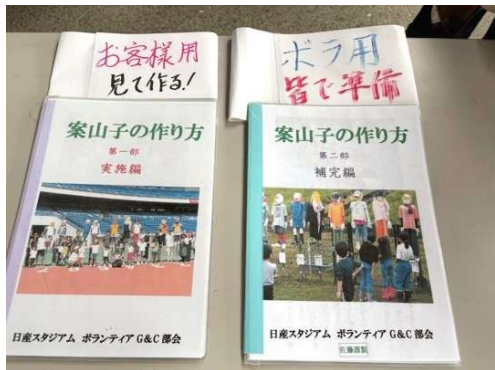
2025年8月10日(日)、恒例の案山子づくりが行われました。今年はグリーン＆クリーン部会の方が作り方の小冊子を準備して当日を迎えました。2組のご家族はどちらも以前に参加経験のあるご家族で、小冊子を見ながらどんどん作業が進められていきました。生憎の雨の中の開催になりましたが、ボランティアルームの外の広い場所で行われた案山子づくりは元気な声がコンコースに響いていました。グリーン＆クリーン部会の方がそれぞれの家族にお手伝いに入り、子どもさんと楽しそうにおしゃべりしながら作業を行いました。

案山子の衣装はグリーン＆クリーン部会でも準備していたのですが、参加した1家族は、「帽子やアクセサリはお子さんのものを、T シャツはお父さんが以前着ていたものなど、家族の思い出の品を持ってきました」とおっしゃっていました。

1時間ほどで2組のご家族の案山子ができあがりしました。今年は参加した家族が少なかったもので、グリーン＆クリーン部会のメンバーによる案山子も5体作られました。

案山子を作ったあとは、参加したご家族によるメッセージカードが作られ、案山子には「おこめまるくん」などの名前が付けられました。すべての作業が終わった頃に、丁度、雨がやんだので日産スタジアムの中に入り記念撮影を行うことができました。

最後に参加した2家族に昨年収穫したもち米がプレゼントされ解散となりました。案山子づくりのために前日から準備をされたグリーン&クリーン部会の皆さん、お疲れ様でした。(坂田圭美)



事前に準備した案山子づくりの冊子



手際よく案山子を作っていきます



ボランティアの助言で作業が進みます



親子とボランティアの共同作業で案山子を作ります



ボランティアがお手伝いします



案山子づくりが完成して笑顔の親子(2家族)

『稲刈り＆花植え体験』に多くの家族が参加！

～グリーン＆クリーン部会が恒例の行事を行いました～



参加されたご家族とボランティアで「稲刈り頑張ったぞ！」のポーズ

9月28日(日)、19家族、合計22名とグリーン＆クリーン部会13名によって稲刈り＆花植え体験が行われました。グリーン＆クリーン部会のメンバーが前日から田んぼ周辺の安全確認や道具の確認をするなど入念な準備をして当日を迎えました。

朝は曇っていましたが、活動を開始する頃にはお日様も顔を出し残暑の中の稲刈りになりました。始めに稲刈りの方法や注意事項の説明を受けて家族ごとに稲刈りを行いました。お母さんが稲を刈ってお子さんが運んだり、お子さんが稲をまとめてそれをお父さんが鎌で刈ったりしていました。中には「バッタ、あっちへ行け！」とバッタに一生懸命話しかけているお子さんもいました。グリーン＆クリーン部会のメンバーはそれぞれの家族についてアドバイスをしたり、刈り取られた稲を束ねて稲干しを行ったりしました。

参加者の方にお話を聞くと「幼稚園のときから30年ぶりに稲刈りをしました」というお父さんや、「ガーデニングが好きで、めちゃくちゃ楽しいです。脱穀にも参加します！」というお母さんもいらっしゃいました。お子さんに話を聞くと「虫が出てきてびっくりして稲を落としちゃうから大変だった。でも楽しかったよ」と笑顔で答えてくれました。

稲刈りの後で、お子さんはケイトウの花植えに挑戦しました。ケイトウの花が植えられた花壇は華やかになりました。最後に全員で「稲刈り頑張ったぞ！」のポーズで記念撮影をして解散になりました。

前日から準備を進めてくださったグリーン＆クリーン部会の皆様、お疲れ様でした。(坂田圭美)



初めに稲刈りの方法を説明します



みんなで稲刈りを進めました



刈り取られた稲を束ねて干します



ケイトウの花を植えました

2025年度の年末の歳時記「しめ縄作りと餅つき」を行いました

2025年12月21日(土)、イベント部会とグリーン＆クリーン部会合同でしめ縄作りと、餅つきが行われました。ボランティア17名が参加しました。9時にボランティアルームに集合し、もち米を蒸すことから始めました。その後、横浜キャノンイーグルスの法被を着て、ボランティアが交代で餅つきをしました。つくたてのお餅は柔らかくてとても美味しかったです。その後、しめ縄作りが行われました。きれいな形にするのが難しかったのですが、ベテランのボランティアの指導の下、皆さん上手に作ることができました。

春の田植えから始まった今年の稲作でしたが、案山子づくり、稲刈り、脱穀、餅つき、そして脱穀した稲わらを使ったしめ縄作りで一区切りとなりました。(坂田圭美)



脱穀した稲わらを使ってしめ縄を作りました



ボランティアが交代で餅つきをしました

日産スタジアムボランティア在籍20周年を讃える感謝状贈呈について

日産スタジアムボランティアの活動を20年の永きにわたって続けてこられた2004年登録(IDナンバーの最初4桁が2004)の7名の方々の功績を讃えて、日産スタジアムから感謝状が贈呈されました。今年の1月31日(土)、在籍20周年を迎えたボランティア7人が出席して日産スタジアム内のレストランで謝恩会を行いました。日産スタジアム事業部甲斐部長からご挨拶がありました。「ボランティア活動が20周年となられた方々、おめでとうございます。日産スタジアムは完成から30周年に向けていろいろと考えています。ボランティアの皆さんと一緒に30年を迎えたく、これからも宜しくお願いします」とお言葉をいただきました。(久保勝美)



在籍20周年感謝状贈呈



在籍20周年の7名(前列)と一緒にスタジアム内で記念撮影

FIFA ワールドカップ2026 日本対チュニジア戦のパブリックビューイング開催

6月21日(日)、FIFA ワールドカップ2026の日本対チュニジア戦のパブリックビューイングが日産スタジアムで開催されました。市民を無料招待するイベントで、当日は約1万人の観客が訪れて、メインスタンドの西スタンドと南スタンドの1階席を埋め尽くしました。南北に設置されている大型モニターに映し出される試合中継を見ながら熱戦を楽しみました。グループリーグの初戦でオランダ相手に引き分けた日本代表ですが、勝利を期待して応援するサポーターが13時のキックオフ直後から大きな声援を送っていました。日本代表は4得点を挙げて、得点毎にスタンドを埋め尽くした観客が喜びの大声をあげていました。場内の売店では食べ物や飲み物の販売があり、特にビールがたくさん売っていました。パブリックビューイングの開催の発表から当日までの日数が短かったため、日産スタジアムボランティアの活動募集ができませんでしたが、事務局員を中心に数名のメンバーが駆けつけて西ゲート付近で観客対応のお手伝いを行いました。(久保勝美)



日本代表が得点する度に盛り上がりました！

※ INFORMATION ※

令和8年8月～12月の活動予定

イベントの時間や人数の変更、活動の追加や中止の可能性があります。活動参加の連絡が届いた場合は確認して下さい。

月日	イベント名	集合時間	終了予定	要員
8/22(土)	J1リーグ 横浜F・マリノス VS ヴィッセル神戸	16:00	21:30	126人
8/26(水)	【天皇杯】横浜F・マリノス VS 未定	16:00	21:00	126人
9/2(水)	J1リーグ 横浜F・マリノス VS 京都サンガF. C.	15:30	21:00	126人
9/19(土)	J1リーグ 横浜F・マリノス VS 水戸ホーリーホック	16:00	21:30	126人
11/1(日)	J1リーグ 横浜F・マリノス VS 川崎フロンターレ	9:30	15:00	126人
11/7(土)	J1リーグ 横浜F・マリノス VS ファジアーノ岡山	10:30	16:00	126人
11/29(日)	J1リーグ 横浜F・マリノス VS FC東京	10:30	16:00	126人
12/13(日)	J1リーグ 横浜F・マリノス VS V. フェーレン長崎	9:30	15:00	126人

✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ 編集後記 ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂

✂ 7月20日(月)、FIFAワールドカップ2026の決勝戦でスペインとアルゼンチンが対決しました。延長後半にスペインが1点を先制して、そのまま激闘の決勝戦が終了し、スペインが2度目の優勝を飾りました。帰国したスペイン代表メンバーは首都マドリッドで盛大な優勝パレードに参加して、約200万人のファンが輝かしい優勝パレードを一目見ようと、沿道や広場に集まりました。

✂ 6月30日(火)、サッカー日本代表チームは決勝リーグでブラジルと対戦して後半のアディショナルタイムに1点を取られて敗退しました。結果は残念でしたが、日本中がFIFAワールドカップ2026の話題で盛り上がり、試合会場のアメリカやメキシコのスタジアムに何万人もの日本人が応援に駆けつけました。日産スタジアムでは日本対チュニジア戦のパブリックビューイングが開催され、約1万人のサポーターが大きな声援を送っていました。

✂ 24年前に横浜国際競技場で行われたFIFAワールドカップ2002決勝戦ではブラジルが5度目の優勝を決めました。その熱気を思い出して今でも世界中から多くの方々が日産スタジアムツアーに参加しています。日産スタジアム運営ボランティアとして、FIFAワールドカップ2002決勝戦の会場となったこのスタジアムで活動できることを楽しみにしていきたいと思います。(久保 勝美)

発行・編集：日産スタジアム ボランティア事務局 情報部会

〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 日産スタジアム Tel: 045-477-5030 FAX: 045-477-5002